

帝國議會に於ける

文相“日本世界觀”闡明

第八十一回帝國議會二月廿七日の衆議院決算委員會に於て阿子島俊治(宮城氏)の質問!文教府の立場より見たる「日本世界觀」如何!に對し、橋田文相は次のごとく所信を表明せり。近時青葉の綾としてのみ世に行はれ勝ちな「日本世界觀」の意義の闡明、實踐なき思想の無意義なるを説いた。

日本世界觀とは歐米的、殊に米英的思想を打破する爲に出來た言葉である。日本世界觀は物の觀方といふことではなく、それはやがて實踐といふことを前提としての觀方である。則ち國體の本義に隨順し臣民として天皇に歸一し奉ることであり、聖德太子の家を中心とする「和」の世界を作りあげて行くことである。先般日本諸學振興會を作り、これで物を日本的に把握する方向が出來、學問樹立に向つてゐる。要するに日本世界觀は哲學的論議により云々することではなく身をもつて體現することこそ大切なものだと思ふ。云々

然れば百の論議ありと雖も一の實踐に及ばず。淨瑠璃は立派なりと雖も行儀品性が之に伴はざれば空經文たるに過ぎざるべし。淨瑠璃人は言行一致大東亞の指導者として皇國精神の暢達に努め共榮國諸民族を同化訓育せねばならぬ天賦の大責任ある事を忘れてはならぬ。思想問題、人種問題、忠君愛國の念慮須臾も念頭を放れてはならぬ。世界の君子國たる誇りは淨瑠璃を語ると語らざるとに拘らず常に華國精神の普及昂揚に邁進せざるべからず。之れ則ち教育勅語を忠實に奉遵する日本帝國臣民として世界に誇る日本世界觀の實現であり、特に淨瑠璃人の誠心誠意の務めである事を深感し、橋田文相の開明に應へ更に再認識を新にしたるものである。

大阪素義銃後奉公會六十八回

四月十七日、八日、大和八木町畝傍中學校講堂に開催。第六十九回は四月廿日、廿一日、大和今井町國民學校講堂に開演、孰れも女文樂人形入なり。

女義若女會六十五回

四月一日淺草雷門東橋亭に開會番組左の如し

柳(佳世子、綾作)▲野崎(素次、清三)▲安達原(綾之助、清一)▲沼津(素八、駒登久)▲太十(重之助、勝八)

竹本敷島大夫記念碑

日本因會評議員竹本敷島大夫は生國淡路阿萬町に記念碑を建立し、大阪敷島連世話人阿萬町有志中河新五郎、末廣森松、樺川隆次郎、江本政次郎、川原文市、數田濱市諸氏の贈煎にて四月十一日除幕式を機會とし龜岡館に於て出征軍人遺家族の慰安の爲、源之坂一座人形入にて淨瑠璃會を催す事となりたり、番組左の如し

忠六春彌。八陣好玉。柳隣若。太十一光。御殿い極。沼津文玉。鮎屋藥玉。玉三素鶴。(中入)祝辭朗讀。谷三好昇。壺阪美かと。菅四談司。忠九杜若。合邦梅曲。安達三春香大夫。(千秋樂)

女子部研究會

三月十二、三兩日信濃橋岡會館に例會を開催。其の番組左の如し。

前日 角重勲作住家。勝司三代記。平助松王屋敷。錦龍阿彌寺。春駒布三寶盛物語。綾助順禮歌。

後日 雜代宿屋。仙千代合邦辻。網若白石揚屋。廣昇先代御殿。雄三袖萩祭文。雄昇敵軍記流しの枝。雄駒酒屋。(了)

綾秀會は繼續

竹本綾秀師は三月十三日病氣保養不可永眠せるも綾秀會は會員全部の意思により故人の志望を繼承し維持存續と決定せり。